

都中道研

第一三二号



副会長 門脇利種（小金井市立小金井第一中学校長）

令和七年二月五日、杉並区立天沼中学校を会場としてオンライン配信を併用した形で、第五十四回東京都中学校道德教育研究会研究発表大会を開催いたしました。御講演を賜りました国立教育政策研究所教育課程調査官井上結香子先生をはじめ、多数の皆様にご参加・御視聴いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

今年度東京都中学校道德教育研究会では、「人間としての生き方について考えを深める道德科の指導の工夫」をテーマとして研究をすすめてきました。六月に杉並区立天沼中学校で総会・研修会、八月にセシオン杉並で第一回部員総会・研修会、一月にセシオン杉並で第二回部員総会・研修会を開催しました。また、月一回程度天沼中学校において研究部会を開き、前半は全日本中学校道德教育研究大会神奈川大会（兼関東・甲信越大会）の発表に向けた研究を行い、後半は二月の研究発表大会に向けて研究を行い、その成果の一

端を、先日の研究発表大会で公開授業として御覧いただきました。研究発表大会では、六名の部員が三名ずつ二学年六クラスで授業を行いました。一年生では「偽りのバイオリン」による内容項目「よりよく生きる喜び」について、二年生では「ゴリラの真似をした彼女を好きになった」による内容項目「友情、信頼」について授業を実践しました。そして、「偽りのバイオリン」の作者鴨井雅芳先生や「ゴリラの真似をした彼女を好きになった」の作者三浦摩利先生にも御参加いただき教材に対する思い等をお聞きすることができました。また、昨年度同様、当日はオンラインでの配信も行い、多くの先生方にも見ていただく機会を設けることができました。当日の講師として、国立教育政策研究所教育課程調査官井上結香子先生に御講評・御講演いただき今年度の研究を振り返り深めることができました。

今後、道德教育のさらなる充実を目指すので、今後とも御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和七年度の活動予定

事務局長 生野 まゆみ

（調布市立神代中学校長）

一 令和七年度活動予定

会場等詳細については、HPにて、お知らせいたします。

（一）総会・研修会

令和七年六月

（二）第一回部員総会・研修会

令和七年八月

（三）第二回部員総会・研修会

令和八年一月

（四）第五十五回研究発表大会

令和八年二月中旬

二 全国大会・関東甲信越大会

日程等は次の通りです。変更が生じる可能性もあります。詳細は、HPにてお知らせします。

○第五十九回全日本中学校道德教育研究大会岐阜大会

令和七年十一月二十七日（木）

二十八日（金）

一日目 公開授業・研究協議・指導助言・懇親会

二日目 開会行事・課題別分科会

・指導講話・記念講演・閉会行事

【メイン会場】

グランヴェール岐阜

【学校会場】

岐阜市立長良中学校

大会主題は、「自他ともによりよ

い生き方を求め、実践する生徒を育てる道德教育はどうあるべきか」です。東京都中学校道德教育研究会では、第4分科会「道德科と他の教育活動との関連」について、研究発表を行う予定です。

○第五十四回関東甲信越中学校道德教育研究大会山梨大会Web開催

授業視聴期間

令和七年十月六日（月）

二十四日（金）午前ま

で 大会行事配信十月二十四日（金）

開会行事・課題別分科会・指導講話・閉会行事

【大会行事配信会場】

やまなし地域づくり交流センター

【授業配信校】

甲府市立西中学校、北杜市立

須玉中学校、西桂町立西桂中学校

大会主題は、「多様化、個別化する社会の中で、ともに考え、よりよく生きる力を育む道德教育」です。東京都中学校道德教育研究会では、第4分科会「ウェルビーイングを目指した道德教育」について、研究発表を行う予定です。

令和六年度研究部活動報告

研究部長 池田 和幸

(杉並区立天沼中学校長)

今年度も、会場とオンラインを併用したハイブリッド型研究部会を開催しました。

研究主題を「人間としての生き方についての考えを深める道德科の指導の工夫」として、一年間の研究活動を行いました。

一 全国大会に向けて

四月から一〇月までは、川崎全国大会に向けた研究について、研究部内で検討を行いながら研究の積み上げを行いました。

全国大会川崎大会では、世田谷区立桜丘中学校大谷秋音先生が、昨年度の関東ブロック大会で発表した三色振り返りをを用いた学習評価をその後も継続して取り組んだ成果をまとめ、「学習評価を活用した道德科の指導の工夫―三色振り返りを活用した授業改善―」と題して発表を行いました。

三色振り返りを継続して行い、授業改善を繰り返したことで、生徒の未記載の箇所が減っていくなど、生徒の学習の深まりの様子を捉えることができました。その振り返りがローテーション道德においても有効かどうか検証し、生徒の学習評価を用いて授業改善をしていくプロセスを積み重ねること

で、生徒の考えを深めさせていく実践発表でした。ロイロノートというカード型のウェブアプリケーションを用いることで、データの蓄積、データの分析が速くなり、働き方改革にもつながる取組として、会場の注目度も高い発表となりました。

二 研究発表大会に向けて

一月からは、二月五日の研究発表大会に向けて、人間としての生き方を深めることができる道德科の教材の選定を行いました。都中道研関係の先生方が作成した教材で、著者であることも考慮し、次の二つの教材を選定しました。

「偽りのバイオリン」

平成一六年三月発行の全国中学校道德教育研究会が発行した中学校道德教育実践事例集2に掲載されている元東京都中学校教員であった鴨井雅芳先生がお書きになった教材。バイオリン作りに情熱を燃やす職人が、名誉や金銭のために無謀な依頼を受けてしまい、弟子が作ったバイオリンを自分のものとして売り渡し名声を得ることができず、自分の良心の呵責にさいなまれ悩み続けるが、弟子からの手紙で自分を取り戻す。人間は弱さ醜さを持っており、それ乗り越えようとする存在であるという、よりよく生きる喜びにつ

いて考えられる教材。

「ゴリラの真似をした彼女を好きになった」

明治図書が平成二六年発行の中学校道德自作資料集「生徒が思わず語り合いたくなる24の話」に掲載。多摩市立聖ヶ丘中学校指導教諭の三浦摩利先生がお書きになった教材。成人式で変顔をしたプリントシールを渡された主人公は、中学校の職場体験中の出来事を思い出す。プリントシールを渡した女の子から、その出来事で主人公に言われた一言を励みに進路に向けて頑張っていることを告げられ、中学生時代と変わらず輝いている彼女の姿を見るという話である。中学生は、男女の性差について意識しがちな年代であるが、本教材は互いの存在を励みにし、お互いに良い影響を受けて高め合う関係になっている。友情・信頼の根底にある敬愛について考えを深めていくことができる教材。

二つの教材を授業で使用するにあたって、ねらいとする価値にせまることができるようにすることや、生徒が十分に考える時間を確保できるようにすることなどを考慮し、二五〇〇字程度を目安に本文の校正を行いました。「偽りのバイオリン」では、弱さ醜さに気づき、本来の自分を取り戻す部分について、生徒が考えを深めら

れるように発問を工夫し、「ゴリラの真似をした彼女を好きになった」では、男女の恋愛ではなく、人間として敬愛を深めるところについて考えを深められるように発問を工夫し、指導案を作成しました。

三 第五十四回東京都中学校道德教育研究発表大会(会場・オンライン配信併用ハイブリッド開催)
令和七年二月五日(水)

(会場) 杉並区立天沼中学校

【公開授業】

天沼中学校一学年・二学年生徒に研究部員が授業を行いました。
一学年

教材「偽りのバイオリン」出典

中学校道德教育実践事例集2

全日本注意学校道德教育研究会刊

鴨井 雅芳(駒澤大学講師)作

内容項目 Dよりよく生きる喜び

1年A組

(授業者) 大田区立南六郷中学校

三瓶 真悟 主任教諭

1年B組

(授業者) 小平市立花小金井南中

学校

武田 彩 主任教諭

1年C組

(授業者) 杉並区立泉南中学校

金子 太翼 教諭

二学年

教材 「ゴリラの真似をした彼女を好きになった」 出典 中学校道徳自作資料集・生徒が思わず語り合いたくなる24の話 明治図書刊 三浦 摩利（多摩市立聖ヶ丘中学校指導教諭）作

内容項目 B 友情、信頼

2年A組

（授業者） 多摩市立多摩永山中学校

松村 孝幸 主幹教諭

2年B組

（授業者） 八王子市立宮上中学校

海老澤 宏 主幹教諭

2年C組

（授業者） 中野区立明和中学校

小谷野 龍 教諭



【協議会】

① 授業者自評

② 質疑応答

③ 講評（教材の作者から）

協議会は、学年ごとに分かれ各授業者の自評と参加者からの質疑応答という形で実施しました。その後、教材の作者である、鴨井先生、三浦先生から教材に込めた思いや教材誕生のエピソード、今日の授業についてお話をいただきました。



【研究発表】

① 会長挨拶

江東区立有明中学校

月田 行俊 校長

② 研究部長より

研究主題、活動の概要、教材選定の理由

杉並区立天沼中学校

池田 和幸 校長

③ 指導講評・講話

「人間としての生き方についての考えを深める道徳科における指導の工夫について」

講師 国立教育政策研究所

教育課程調査官 井上 結香子様



3 研究の方法、内容

【視点1】集団のセーフティの中で
多面的・多角的に考えさせる学習形態の工夫

セーフティが確立されたp4c（円座）の学習形態

↓
安心感をもって相手に自分の思いを伝える、お互いに伝え合う

他者とのやり取りから多面的・多角的に

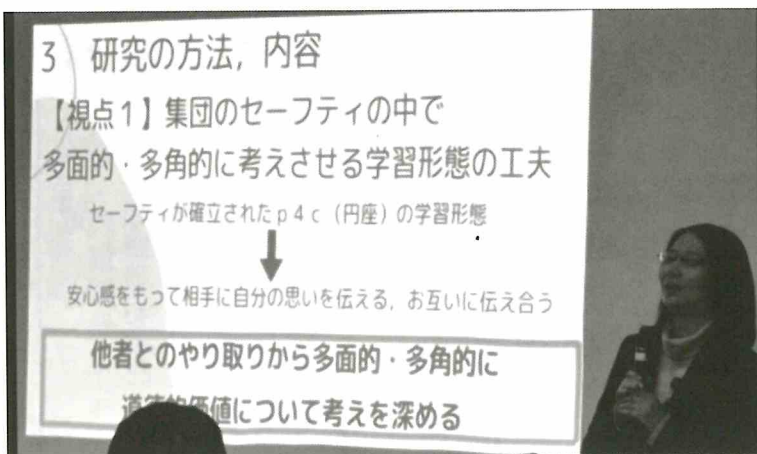
道徳的価値について考えを深める

四 アンケート調査について

例年校長会を通して依頼して実施しているアンケート調査の結果と考察を研究紀要に載せていくことといたします。

今年度の成果をもとに次年度更なる研究の深化を図り、令和八年度の全国大会につなげていきます。詳しい研究のまとめは年度末に発行する研究紀要をご参照いただきたいと思っています。

一年間様々な皆様のお力を借りて研究活動を進めることができました。皆様に感謝を申し上げます。



令和六年度の後期活動報告

事務局長 生野 まゆみ

(調布市立神代中学校長)

一 全国大会・関東甲信越大会

第五十八回全日本中学校道德教育研究大会、第五十三回関東甲信越中学校道德教育研究大会神奈川大会において、大会主題「自他を大切に」の心を育む道德教育の充実「学びのつながりを感じ、自己の考えを深められる授業づくりを通して」を受け、「道德科の指導と評価」について、大谷秋音研究部員(世田谷区立桜丘中学校)が研究報告をしました。

二 第二回部員総会・研修会

令和六年一月十七日(金)に、セシオン杉並にて、第二回部員総会・研修会が行われました。

(一) 部員総会

各部より、進捗状況と、部員への周知事項の報告がありました。

(二) 研修会

第五十八回全日本中学校道德教育研究大会、第五十三回関東甲信越中学校道德教育研究大会神奈川大会について、大谷秋音研究部員(世田谷区立桜丘中学校)が報告しました。

(三) 講演

東京都教職員研修センター研修部 授業力向上課 東京教師道場教授 森岡 耕平 先生に指導・講話をいただきました。

三 第五十四回東京都中学校道德教育研究会発表大会

令和七年二月五日(水)に杉並区立天沼中学校を会場とし研究発表会、指導講話が行われました。

(一) 公開授業

東京都中学校道德教育研究会研究部員と、東京教師道場道德科の部員による公開授業を、二学年六学級、で実施しました。

(二) 研究発表

池田 和幸 研究部長(杉並区立天沼中学校長)から、大会主題の「人間としての生き方について考えを深める道德科の指導の工夫」について発表がありました。

(三) 指導・講話

国立教育政策研究所教育課程調査官 井上 結香子 様 より、「人間としての生き方について考えを深める道德科の指導の工夫について」を演題に指導講話をいただきました。

(講話の一部を紹介します)

先生方の取組により、令和六年度の全国学力学習状況調査によれば、道德の授業で、生徒が自分の考えを述べたり、話し合ったりする活動を行っていると思つていました。道德科の授業では、年間で二二の内容項目を一回以上扱います。年間三五単位(以上)の授業数から二二を引くと一三です。各学校が独自に配分する時間といえ

ます。例えば、重点内容項目を年間で複数回、授業で取り扱う時は、その回数分の教材数が教科書にはない場合もあると思います。その時には、地域教材等の活用も検討いただきたいと思います。また、道德では教材の内容そのものを教えるのではなく、教材を活用して生き方について学ぶ時間、考える時間ということにご留意いただきたいです。teachより生徒の発言をcatchすることを大切に、共に考え、悩み、夢や感動を共有するという授業者の姿勢を大切にしたいと思っています。私たち人間は、同じような条件下に生きていたとしても、同じように生きるとは限りません。複数の選択肢が常にあり、色々な選択をしています。その選択の理由を問うと、「何を大事にして生きるのか」が表れるのではないのでしょうか。例えば、三年生にとって部活の最後の大会に誰が大会に出るのかを議論する際に、校内で試合をやつて勝った人が試合に出るべき、三年間で全く試合に出ていなかった人が出るべきなど、さまざまな選択肢があります。なぜ、この考え方に立ち、選択し判断したのか振り返ることで、自分自身に固有の選択基準・判断基準を整理することができないのでしょうか。例えば、このような活動を通して、人生観・世界観ないし価値

観を形成し、主体性をもつて生きたいという意欲を高めていくことが高等学校における道德教育では求められています。このような高等学校における道德教育についても参考にしつつ、中学校における道德教育をより一層充実させていただくことも大切です。

最後に、国の動きの一つとして、道德教育アーカイブについて紹介します。アーカイブの中には全国の道德科の授業の実践動画が二五分位に編集されています。今年度も、新たに小・中共に五本ずつ上げる予定です。ぜひ、研修等でも活用いただければと思います。

編集後記

日頃より、都中道研の活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

この度、広報第一三二号をお届けいたします。今後も、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

広報部

部長 佐藤 正敏

(足立区立蒲原中学校副校長)

副部長 高橋 優子

都中道のホームページ

<https://www3.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1350004>

